



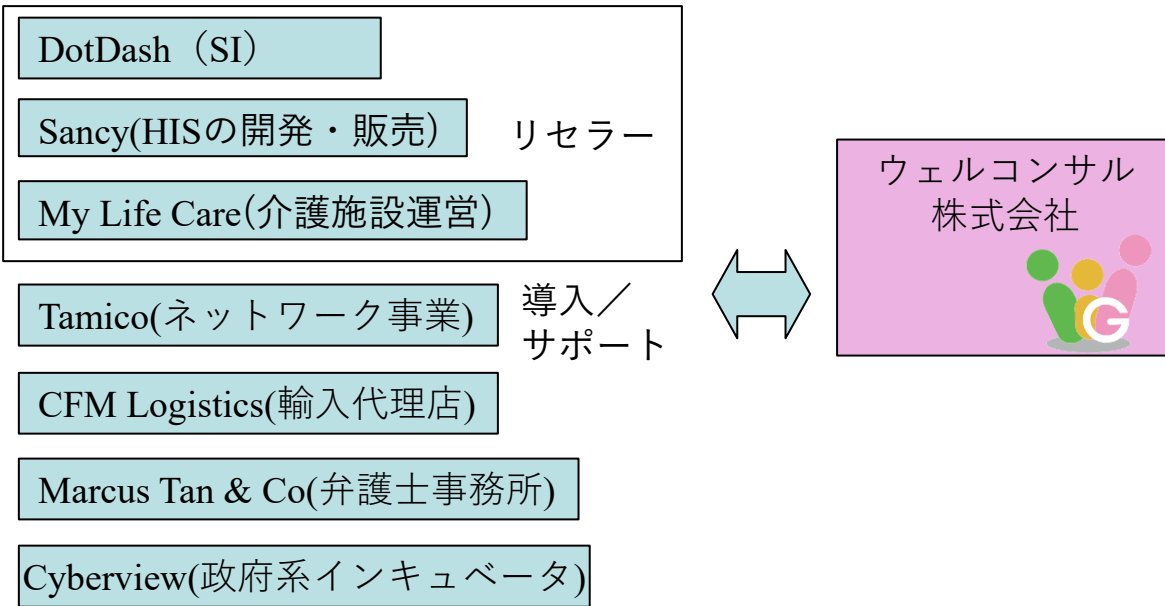
ウェルコンサル株式会社

マレーシアにおけるヘルスケアIoT/ICTを活用した在宅ケア支援の実証事業

本事業の目的

IoT/ICTシステムを活用したヘルスケアプラットフォーム「Care Biz（ケアBiz）」の導入を通じて、マレーシアのヘルスケア分野のDX促進、在宅ケアサービスの拡充を行う。
 また、在宅患者と病院を繋ぐCare Bizを導入することで、即時の健康管理・観察を実現する。現地医療機関等に販売して事業化し、医療と介護を繋ぐ共通サービスインフラ化を目指す。

現地企業や政府との協力・連携



現地の経済・社会課題

マレーシアの平均寿命は74.7歳で、ASEANの中で2番目に高い。老後の介護需要では在宅ケア市場が施設ケアの3.1倍に上る。さらに、糖尿病患者は人口の16.7%とASEAN 1位であり、死亡原因の71.1%が非感染症疾患である。そのため在宅高齢者・患者の健康維持のために、日々の食事・運動記録、バイタル測定を的確に行うことが求められる。
 また、マレーシアでは高齢者・患者の健康管理・予防サービスが必要であるが、確立されていない。
 現地政府は「戦略プラン2020-2025」でもヘルスケアDXを最重要課題としているが、核となる病院情報システム（HIS）もまだ21カ所しか導入されていない。また在宅ケアのためのITサービスを推奨しているが、1病院間の情報共有のみにとどまっており、患者の日常の健康観察が十分に行えていないことが課題である。そのため、市場全体としての生産性向上や、医療・介護の質の向上につなげていない。



(左) 連携するIoTデバイスの一部

(右) CareBizのグラフ機能と情報共有機能

(上) 連携したDotDashメッセージング

(下) 連携したSancyのHIS

ウェルコンサル株式会社

マレーシアにおけるヘルスケアIoT/ICTを活用した在宅ケア支援の実証事業



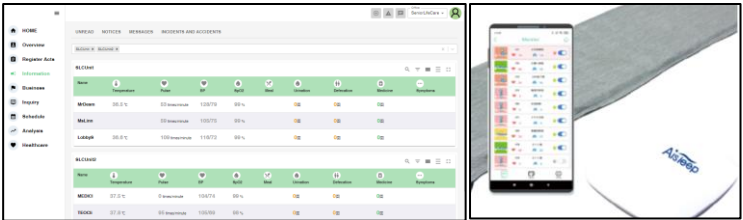
実証期間

2022年9月～2024年1月

実証した内容

当社は奈良県を中心に医療介護事業を行うウェルグループの中心会社である。当社は医療介護ノウハウを活かし、IoTにより患者のヘルスデータを集約し、医療機関・介護施設・本人家族と情報連携を行うICTシステム（製品名「CareBiz（ケアビズ）」）を開発した。本事業では、CareBizを現地適合理化するよう改良し、導入した。

現地適合理化改修を行ったCareBizの導入を通じて、在宅ケアの質の向上や医療・介護機関での業務支援、介護人材の育成に貢献できないかを検証した。実証実験はMy Life Care（シニアマンション、ジョホールバル）とTEO整形外科クリニック（ジョホールバル）で行い、高齢者のバイタルデータを収集し、健康状態のモニタリングを行った。機材については下記のものを利用し、機材実証期間後に患者・医療従事者にヒアリングを行った。



（左）現地適合理化改修を行ったCareBizの画面

（右）連携機器の一つであるベッドセンサー

事業の成果/今後の予定

現地市場調査を通じて、CareBizの市場適合性を把握し、現地医療機関からの積極的な反応を得た。CareBizアプリの現地適合理化改修を完了し、連携機能の拡充を行った。CareBizの運用モデルをクリニック、シニアマンション、病院などの業態毎に構築した。

さらに今後の事業化に向けて、CareBizのリセラー関係を構築した。サプライチェーンを構築し、現地での販売体制を整えた。製品の改修や機能拡充が必要であり、更なる現地最適化が求められる。販売に向けてはIoT機器の型番認証が必要であり、代理店を通じて対応する必要がある。顧客獲得と営業強化の課題があり、現地代理店の拡大や連携モジュールの活用を検討している。

今後の活動計画として、フェーズ1では実証を継続し、その結果をヒアリング調査で集約、フェーズ2ではSANCY社またはDotDash社を通じて顧客へ販売し、リセラーやパートナーを開拓。フェーズ3では進出の可能性を検討し、現地のニーズに応じてリソースを再編成。フェーズ4ではマレーシア全土での販売活動を拡大し、ASEAN諸国にも展開する。さらにASEAN諸国の介護・ヘルスケア領域のニーズに対応するため、医療介護に関わるコンサルティングサービスを提供することを検討している。



Cyber View 内
当社借用ブース